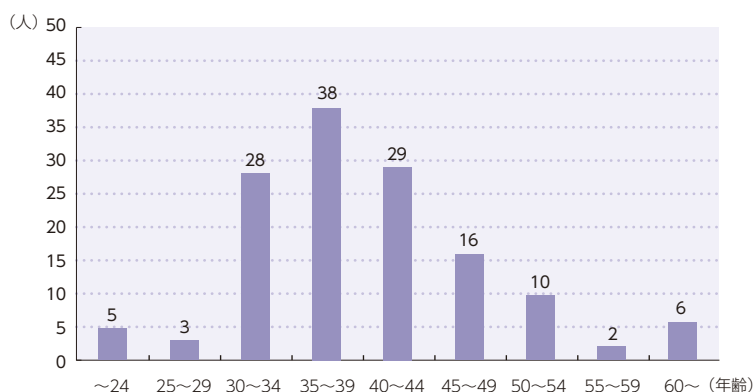


# なぜテニユアトラック制の普及を進めているのですか？

## ● 課題

- ・優れた研究成果を上げた研究者の多くは、若い時期に、その成果の基礎となる研究を行っています。ノーベル賞受賞のきっかけとなった論文の多くは、30代に発表されたものです。

図 ノーベル賞（化学賞、物理学賞、生理学・医学賞）受賞者の業績を上げた年齢の分布（1987～2006）



注) 業績を上げた年齢は、受賞のきっかけとなった論文等の発表時点である。  
出典：文部科学省調べ

- ・しかし、我が国の若手研究者の多くは研究員や助教等の立場にあり、自立して活躍できる環境が十分に整備されていないことが指摘されています。  
また近年、大学や独法研究機関の基盤的経費及び総人件費の削減等が進められた影響などにより、若手研究者の割合が減少する傾向もあって、若手研究者は将来展望を描きにくくなっていることも指摘されています。
- ・このため、優れた研究者を国内外から確保して養成するためには、自立して研究できる環境を与えることや、キャリアパスを見通すことができるように、任期終了後のポストを確保しておく仕組みが求められます。

## ● 文部科学省の取組

- ・文部科学省では、平成18年度から、研究者が若い時期に自立して研究できる環境を整備することを目的に、アメリカ等で定着しているテニユアトラック制を大学等へ導入するモデル事業<sup>\*</sup>を進めてきました。この結果、平成22年度までに40大学等がテニユアトラック制を導入し、各大学では様々な形のテニユアトラック制の試みが行われました。

<sup>\*</sup>旧科学技術振興調整費「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」

- ・平成23年からは、モデル事業の成果等を踏まえて、9頁に紹介する「テニユアトラック普及・定着事業」を開始し、補助対象となるテニユアトラック制の要件を新しく定めています。
- ・第4期科学技術基本計画（平成23年8月閣議決定）においても、以下のような数値目標が定められています。

### 第4期科学技術基本計画（平成23年8月閣議決定）

国は、テニユアトラック制の普及、定着を進める大学への支援を充実する。これにより、各大学が、その目的や特性に応じて、テニユアトラック制の導入を進めることにより、テニユアトラック制の教員の割合を、全大学の自然科学系の若手新規採用教員総数の3割相当とすることを旨とする。